

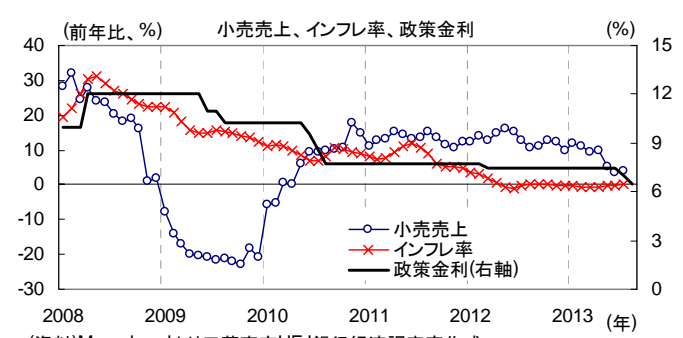
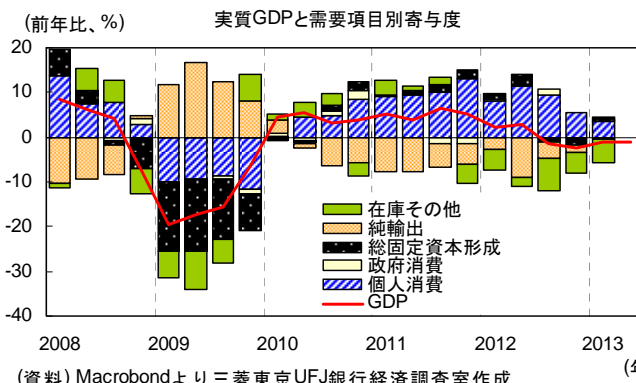
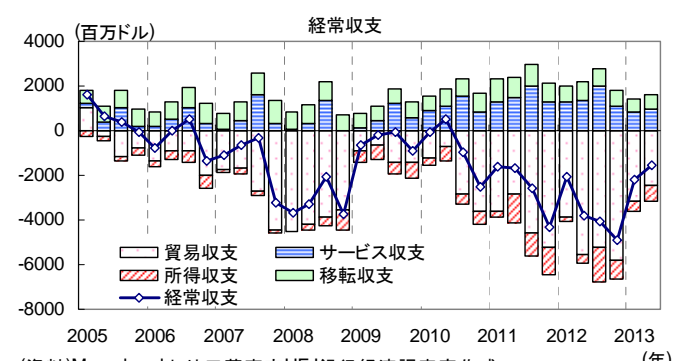
ウクライナ経済・金融概況

Main Economic & Financial Indicators (Ukraine)

経済調査室

Economic Research Office

(照会先：ダーベル暁子 akiko.darvell@uk.mufg.jp)

概況	物価、金利
<p>ウクライナ経済は低迷が続いている。第 2 四半期の実質 GDP 成長率は前年比▲1.1%(速報値)と、4 四半期連続のマイナス成長となった。GDP の内訳は未公表だが、輸出については、欧州景気には底打ちの兆しも見られるが基調は弱い。最大の輸出先であるロシアの景気減速等も鑑みると、依然として低調であったと考えられる。先行きも、ロシアや欧州経済の低成長が続くことが予想されるため、輸出の力強い回復は望みにくい。また、ウクライナが締結を目指している対 EU 自由貿易協定 (11 月調印目標) への牽制として、ロシアが 8 月中旬にウクライナ製品の事実上の禁輸措置を採った。禁輸措置は一時的であったが、その後もロシアのプーチン大統領が同様の措置を再度採る可能性を示唆するなど、今後の下振れリスクは小さくない (ロシア向け輸出は輸出全体の 4 分の 1 強を占める)。内需については、賃金の増加や低インフレを背景に、個人消費が鈍化しつつも底堅く推移した模様である。</p> <p>ウクライナ中央銀行は、6 月と 8 月に計 1.0%ポイントの政策金利引き下げを実施した。一方、米 FRB による金融緩和縮小観測の高まりを背景に新興国通貨に対する下落圧力が強まっており、中銀は、1 ドル=8.14 グリブナ前後に事実上ペッグしている為替レートを維持するため、再三の介入を実施している。外貨準備が激減するなか、為替介入の限界は近いとみられており、今後、通貨切り下げの可能性が見込まれる。</p>	<p>7 月の消費者物価上昇率は前年比+0.0%と、9 ヶ月ぶりにデフレ局面を脱したが、依然としてインフレ圧力は弱い。ただし、今後、インフレ圧力が急速に強まるとの観測が高まっている。政府の補助金により低く抑えられているガス価格は、政府財政を圧迫しており、IMF との融資協定合意のためにも価格引き上げが実施される可能性は高い。また、グリブナ切り下げによる輸入品価格の上昇リスクも考えられる。</p> <p>ウクライナ中央銀行は、8 月 12 日の金融政策委員会において、政策金利を 0.5%ポイント引き下げ、6.5%とすることを決定した。銀行の貸出金利を低下させ、鈍化傾向にある個人消費の底支えを図ることが狙いとみられ、中銀は 6 月にも 0.5%の利下げを実施している。</p>  <p>(前年比、%) 小売上、インフレ率、政策金利 (%)</p> <p>(資料)Macrobondより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成</p>
<p>実質GDPと需要項目別寄与度</p>  <p>(前年比、%)</p> <p>(資料) Macrobondより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成</p>	<p>国際収支</p> <p>第 2 四半期の経常赤字は 15.6 億ドルと、前年の 37.9 億ドルから半分以下となった。輸出の減少が続いたが、輸入の大幅減による貿易赤字の縮小が寄与した。財輸出は、ロシア、欧州等の海外景気の停滞から前年比▲9.2%となった一方、輸入は個人消費の減速等を受け、同▲20.5%と大きく落ち込んだ。</p>  <p>(百万ドル) 経常収支</p> <p>(資料)Macrobondより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成</p>
<p>生産</p> <p>7 月の鉱工業生産は前年比▲4.9%の減産となった。マイナス幅は縮小傾向にあるものの、前年水準を下回るのは 14 ヶ月連続。部門別で見ると、製造業では主要輸出品目である鉄鋼が同+1.6%とプラスの伸びに転じたものの、薬品・肥料 (同▲18.8%)、鉄道車両・部品 (同▲33.3%) における大幅な生産減を受け、全体で同▲7.5%の減少となった。</p>	<p>トピックス：IMF 融資再開に向けた動き</p> <p>長期化する景気低迷と、米 FRB による金融緩和縮小観測の高まりを受けた、新興国を取り巻く市場環境の悪化で、ウクライナの資金繰り懸念が高まっている。国債市場における資金調達に困難となるなか、IMF との新たなスタンバイ融資協定の締結が急務とされるが、政府がガス料金引き上げ等を依然として渋っていることなどから、交渉は中断している。2010 年に IMF から受けたスタンバイ融資の返済も進んでおらず、未返済額が約 80 億ドルと IMF が規定している同国への融資限度枠を大幅に超過している状態が続いていることも問題視されている。7 月末には、IMF からポスト・プログラム・モニタリング (PPM) の対象となることが発表され、経済運営や構造改革等に関してより頻繁で厳しい監視が行われることとなった。新規融資協定締結に向けたハードルは一段と高くなったと言えよう。</p>
<p>消費</p> <p>7 月の小売売上は前年比+3.9%と、約 3 年半ぶりの低い伸びとなった前月の同+3.7%から僅かだが加速した。平均賃金上昇率が高めで推移していることに加え、政府によるガス料金引き上げの差し止めや中銀のグリブナ買い等でインフレ率が低水準に抑えられていることが支えとなっている。消費者信頼感については、景気見通しの持ち直し等を受けて、7 月は低水準ながらも 3 年ぶりの水準まで持ち直した。家計向け銀行貸出をみると、2009 年以降前年比マイナスが続いていたが、6 月以降、若干のプラスに転じている。ただし今後、通貨切り下げが実施された場合、輸入インフレの発生や外貨建ローン返済額の増加等が家計の圧迫要因となり、個人消費の腰折れリスクが高まる。</p>	

ウクライナ経済・金融概況

1. 年、四半期

	2010	2011	2012	12/Q2	12/Q3	12/Q4	13/Q1	13/Q2
名目GDP実額 (10億米ドル)	136.2	163.0	174.3	43.3	47.8	46.5	37.2	-
実質GDP成長率 (y/y, %)	4.2	5.1	0.4	3.0	▲ 1.3	▲ 2.5	▲ 1.1	▲ 1.1
(民間消費支出) (y/y, %)	6.9	15.5	11.9	15.7	14.0	6.9	4.5	-
(総固定資本形成) (y/y, %)	2.8	5.9	3.5	16.2	▲ 6.9	▲ 7.5	4.0	-
鉱工業生産 (y/y, %)	10.8	7.0	▲ 2.2	▲ 0.1	▲ 4.2	▲ 5.2	▲ 4.8	▲ 5.7
小売売上 (y/y, %)	6.5	13.1	12.9	15.4	11.5	11.7	10.9	6.2
銀行貸出伸び率 (y/y, %)	1.3	9.4	1.7	3.7	1.1	1.7	3.4	4.4
消費者物価上昇率 (y/y, %)	9.4	8.0	0.6	▲ 0.4	▲ 0.0	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 0.4
平均賃金上昇率 (y/y, %)	17.7	17.5	14.9	16.0	13.5	12.6	9.6	8.8
失業率* (%)	1.6	1.8	1.7	1.7	1.5	1.6	2.0	1.8
貿易収支* (百万米ドル)	▲ 9,309	▲ 14,197	▲ 15,848	▲ 4,306	▲ 4,259	▲ 4,374	▲ 1,987	▲ 2,234
輸出額 (百万米ドル)	51,431	68,410	68,810	17,509	17,121	18,011	15,911	14,831
輸出伸び率 (y/y, %)	29.5	33.0	0.6	0.3	0.1	▲ 2.4	▲ 1.6	▲ 15.3
輸入額 (百万米ドル)	60,740	82,607	84,658	21,815	21,379	22,385	17,898	17,065
輸入伸び率 (y/y, %)	33.7	36.0	2.5	10.0	1.1	▲ 3.1	▲ 6.2	▲ 21.8
経常収支 (百万米ドル)	▲ 3,018	▲ 10,245	▲ 14,761	▲ 3,790	▲ 4,045	▲ 4,873	▲ 2,183	▲ 1,559
資本収支 (百万米ドル)	9,937	6,804	5,770	2,411	3,123	63	3,657	-
対内直接投資 (百万米ドル)	6,495	7,207	7,833	1,811	2,004	1,965	899	-
外貨準備高 (百万米ドル)	34,576	31,795	24,546	29,318	29,255	24,546	24,729	23,245
対外債務残高 (百万米ドル)	117,346	126,236	135,065	128,955	132,447	135,065	136,277	-
政策金利(ディスカウント金利)	7.75	7.75	7.50	7.50	7.50	7.50	7.50	7.50
短期金利(Interbank three month ask)	7.22	9.92	19.82	14.22	22.68	25.52	13.37	9.56
UAH/USD	7.95	7.99	8.08	8.06	8.11	8.14	8.12	8.14
UAH/Euro	10.52	11.11	10.38	10.33	10.13	10.56	10.71	10.63
UAH/GBP	12.28	12.80	12.81	12.75	12.80	13.08	12.59	12.50

2. 月次

	12/12	13/01	2	3	4	5	6	7
鉱工業生産 (y/y, %)	▲ 7.6	▲ 3.2	▲ 6.0	▲ 5.2	▲ 2.2	▲ 9.3	▲ 5.7	▲ 4.9
小売売上 (y/y, %)	9.9	12.0	11.2	9.4	9.7	5.3	3.7	3.9
銀行貸出伸び率 (y/y, %)	1.7	2.8	3.1	3.4	3.4	3.9	4.4	5.3
消費者物価上昇率 (y/y, %)	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 0.1	0.0
平均賃金上昇率 (y/y, %)	10.6	10.2	8.8	9.9	9.9	7.9	8.7	8.8
失業率* (%)	1.8	2.0	2.1	2.0	1.9	1.8	1.7	1.6
貿易収支* (百万米ドル)	▲ 2,072	16	▲ 919	▲ 1,084	▲ 618	172	▲ 1,787	-
輸出額 (百万米ドル)	5,725	5,126	5,351	5,434	6,064	5,218	3,549	-
輸出伸び率 (y/y, %)	▲ 11.4	▲ 3.8	7.8	▲ 7.5	4.7	▲ 16.4	▲ 35.2	-
輸入額 (百万米ドル)	7,797	5,110	6,270	6,518	6,683	5,046	5,337	-
輸入伸び率 (y/y, %)	▲ 1.2	▲ 5.1	▲ 7.2	▲ 6.0	▲ 8.0	▲ 33.4	▲ 23.5	-
政策金利(ディスカウント金利)	7.50	7.50	7.50	7.50	7.50	7.50	7.00	7.00
短期金利(Interbank three month ask)	24.37	16.55	12.75	10.83	9.98	9.62	8.94	8.95
UAH/USD	8.10	8.10	8.12	8.13	8.14	8.13	8.15	8.15
UAH/Euro	10.63	10.77	10.84	10.53	10.60	10.56	10.75	10.66
UAH/GBP	13.08	12.93	12.57	12.27	12.46	12.43	12.62	12.36

(注) 失業率は登録失業者率、貿易の値は通関ベース、直近の値のみ国際収支ベース。網掛けは速報値。UAH: Ukraine Hryvnia (グリブナ)

(資料) ウクライナ中央銀行、ウクライナ統計局他

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませ。宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。